

日本消化器外科学会 国内留学プロジェクト 修了後アンケート

1. 今回、国内留学プロジェクトに参加し、学んだことは何ですか。

改めて正確な解剖学的認識の重要性を学ぶことができました。適切な剥離層を見出すためには良好な術野展開が重要であり、特にロボットの第4アームを活用した展開方法は大変参考になりました。

また、「Role-sharing surgery」の考え方に基づいた教育システムについても学びました。術者の経験や技術レベルに応じて担当パートや目標時間が設定されており、教育と手術効率、安全性を高いレベルで両立している点が非常に印象的でした。

2. 今後、自身の所属施設で実践したいと思ったことはありますか。

自施設においても Role-sharing surgery の考え方を取り入れ、若手医師が段階的に技術習得できる教育体制の構築に役立てたいと考えています。教育と安全性を両立しながら、チーム全体の技術向上につなげていきたいと思えます。

3. 国内留学プロジェクトの利点として挙げられることはありますか。

高難度手術を行う施設で、手術手技だけでなく教育体制やチーム医療の実際を直接学べる点が大きな利点だと感じました。また、他施設の先生方との交流も貴重な経験となりました。

4. 国内留学プロジェクトの今後の課題として挙げられることはありますか。

手続きや留学中困ったことなど、些細なことでも良いので記載をお願いします。

非常に有意義なプログラムであり、大きな課題は感じませんでした。あえて挙げるとすれば、事前に学習目標や見学ポイントを共有できる仕組みがあると、学んだ内容をより効果的に自施設へ還元できると考えます。